



平成 19 年 5 月 1 日

国土交通省道路局長 様

上川郡当麻町長 菊川健



道路整備の中期的な計画策定にあたっての意見について (回答)

平成 19 年 4 月 2 日付け、国道企第 1 1 4 号にて依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり意見を提出いたします。

道路整備の中期的な計画の策定にあたっての意見

(北海道当麻町)

副市長 菊川 健一

1、重点化を進める上で特に優先度の高い政策

- ・ 本州と比べて、広大な面積と積雪寒冷気候条件を有する北海道においては、道路基盤の整備はまだまだ遅れており、その維持管理においても財政的支援が必要不可欠のものです。

特に、北海道が観光立国を目指していることに鑑み、空港や主要観光施設と他の観光地域、又は高規格道路とアクセスするための接続路線の整備が急がれます。加えて、これらの道路と周辺の景観整備も必要となります。又、整備と平行して、交通量の比較的多い道路（特に道々）においては、整備だけでなく環境景観を重視した常日頃の維持管理が大切であります。財政的な事情が大きいと思われませんが、主要道路が草ぼうぼうでは感心出来るものではありません。

- ・ 町村においては、財政的な面から往年のように補助事業に該当しない町村道を単費で整備することは困難であります。地域住民が必要とする小規模な数百万円の生活道路の整備もままならないのが実情であります。

現在の国における道路整備予算（市町村道整備補助・交付金等）のきめ細かな配分を要望いたします。

さらに、市町村道の維持管理についても同様のことが言えます。国からの交付税等にその財源は含まれていることは十分に承知しておりますが、実情は道路維持の財源として全て使える状況ではありません。

財政規模の小さな町村が、延長240キロメートルの町道を維持管理することはたいへんなことであり、道路管理者として安全な交通を確保するためには、まずは必要なるものは財源であります。このため、使途限定の道路維持管理財源の新設も必要に思われます。

2、効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

- ・ 市町村の立場からは、道路財源による大規模な国道、主要道々、高速道路や大都市圏の道路基盤整備は重要なことと思いますが、大事業ほど住民の意見の反映は勿論、真に必要な事業規模なのか（事業費の面）を、より細かに検討してもらいたい。

市町村財政から見れば、比較にならないほどの巨額の投資であり、財源は税金の投入であることを基本に事業を進められたい。